

令和元年度 第2回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会 会議録	
日 時	令和元年9月25日(水) 14:15～
開催場所	野毛地区センター
出席者	(委員) 小宮輝之委員長、浅井紀代子委員、齋藤毅憲委員、佐渡友陽一委員、間曾さちこ委員 (指定管理者) 横浜市緑の協会
開催形態	非公開
議 題	1 平成30年度指定管理者事業評価、協会プレゼンテーション 2 令和元年度第1回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録の確認
決定事項	・令和元年度第1回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録の確定
議 事	<p>1 平成30年度指定管理者事業評価、協会プレゼンテーション (事務局より資料1、2、3、参考1について説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メインとなる動物飼育管理業務について得点率が低いとの印象がある。 ・3園で比べた時に、野毛山動物園の得点率が低いと感じた。原因はどのような点か。 →「獣医学的衛生管理」の項目について、飼育動物間で病気が広まったことがあり、もう少しコントロールすべきであると減点した。また「動物舎及び展示場の管理、脱出防止」の項目において、傷病鳥獣保護事業で保護されたタヌキがケージから室内に出てしまったことがあり減点した。他には「動物収集」の項目について、台帳の記載ミスにより他園所属の動物を誤って他の園に貸出したことがあった。一方でトラのキャットウォーク(高所にあるネコの通り道)やキリンのフィーダー(容易にエサを取り出せないように工夫した給餌器)など好ましい取組には、加点した。 <p>(指定管理者入室、プレゼンテーション)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度の振り返りを受けた、令和元年度の重点改善項目などよく整理されている。 ・取組を「飼育・繁殖」、「調査・研究」など7つの項目に分類しているが、その項目がどの重点改善項目に関連しているか分かるとさらに良い。 ・重点改善項目に関して、優先順位はどのように考えているか。 →事故防止が最重点課題だと考えている。 ・(9月9日の)台風被害と復旧はどのような状況だったか。 →(金沢動物園)倒木がひどく、目で見える範囲で全倒・半倒合わせて170本、枝折れが120～130本以上あった。台風が過ぎた日は休園日で、その翌日を持って臨時休園とし、倒木の対応で園路を確保した。翌々日からは一部封鎖箇所を設けて開園した。今回の台風は日にちが経過してから傾く木もあり、台風から2週間が経過したところで改めて3日間臨時休園とし、上部が重い木を剪定するなどの処置を行った。

当日は泊まりの体制はとっていなかったが翌日の交通機関が大きく乱れたことで、影響があった。今後は前日のうちに翌日の出勤体制を確認するなど、準備が必要と感じている。

(ズーラシア) 倒木がひどく、特にカンガルー・亜寒帯のエリアの影響が大きかった。台風翌日を臨時休園とし、その翌日の当初休園日とあわせて2日間で対応したが、一部はまだ閉鎖している。体制については、夜間は警備員が複数名常駐しているほか一部の管理職がすぐかけつけられる体制としていた。ただしそれだけでは動物は飼育できないため、今後は台風の予想が出た段階で予測を立てながら人員を確保していきたいと考えている。

(野毛山動物園) 休園対応には至らなかったが、まだ処理は完了していない。事前に公共交通機関が運休する情報があったため、管理職が泊まった。職員も含めて次の日の復旧体制が課題である。

・日本の自然環境がだいぶ変わってきており、企業では何か起きた際に早期に営業再開できるような策（BCP：事業継続計画）を考えている。今回の台風災害のように、倒木が非常に多いなど、動物園への影響が大きく休園が必要になる時の対策や研究を行わなければいけないと思う。

・動物への被害はなかったか。

→特になかった。

・千葉のある施設では停電の影響で飼育していた魚が全部死んでしまったところがあった一方、発電機などの対応で問題なく対応できたところもあったと聞いている。協会全体として、今回はどのような対応をとったのか。

→職員の体制が揃わない園もあったため、協会から現場に人を派遣して現状確認を行った。今回、千葉の例を見て停電がネックという印象を受けた。獣舎の扉は電動であるため、東日本大震災時には動物を中に入れることができない状況が生じていた。そのことも踏まえ市と協議しながら、発電機などの準備を進めている。しかし千葉のように1週間以上空調が止まれば、コアラも死んでしまう。今、コアラ舎の空調更新も市と進めており、今後より手厚く考えていきたい。市のBCPの中では動物園についても書かれているが、詳細には触れられていないため、指定管理者としてそれを活かしながらも、しかるべき時の開園に向けて盛り込んだものを作っていかななくてはならないと考えている。

・被害の正確な把握を行い、早めに市に伝えることも必要である。

→災害対応では、一義的には指定管理者が動くが、それを超えるような今回の例については、市と調整を図りながら対応を進めている。

・動物園では猛獣脱出対応訓練などを実施しており、マニュアルも共有されているが、このような災害にもマニュアルが必要になってくると思うので準備してほしい。

・国際的な繁殖計画への参画・連携数が目標10に対して実績が9という差はヤブイヌの

件であり、現時点では達成しているとの認識でよいか。

→本来は3月末までに実施予定だったが、輸送の関係でずれこみ4月に搬入した。年度末までの目標であったため、足りていないという自己評価を行った。

・固有職員の動物職採用が1名だが、規模からみると少ないのではないか。

→臨時も含めた嘱託員は17名採用しているが、固有職員については経営状況にも左右されるところがあり、10年間の指定管理の中で計画的に採用を行う考えでいる。また市から派遣されている職員もいるため、職員の退職にあわせて正規職員を採用していくという方針もある。過去に指定管理期間が5年間という時期があり、雇用に踏み切れない期間があったため、20代、30代前半の若手職員がいない状況となっている。今後は、若手職員の採用や上の年代でも経験者採用を検討し、人材育成計画に活かしたいと考えている。

・ナイトズーが営業成績的に良かったのは好ましいことである。開催回数を増やして増えたのではこの結果に意味がないが、どのような状況か。

→ナイトズーに関する昨年比の考え方は、3園とも来園者数の1日平均で算出しているため、労力については変わっていない。大きく変化した所は、WEB広告を大きく打ち出したところとズーラシア20周年の夜市があたった点である。お客様アンケートの結果からも両方が良かったという結果が出ている。

・無理せず実施した結果として、良い結果が得られたという理解でよいか。

→はい。これまで金曜日夜に実施するなど試行錯誤を重ね、数年の積み重ねにより8月の土日及び山の日に絞って実施している。3園共通の新聞広告掲載や東名高速の足柄サービスエリアのテーブルステッカーなどで効果的な宣伝を行っている。夜の動物は動きが全く違うため、お客様にも喜んでいただいている。

・継続的な企業連携に挙げられている、「おえかきずかん（指定管理者が監修し、平成30年10月から全国販売された書籍）」について効果はどのくらいか。

→「おえかきずかん」に掲載の動物は市内の動物園にいる動物であり、また最終ページに3園の案内が掲載されている。印税収入のほか書店に並ぶことによる広報効果がある。

・企業連携による新しい企画の検討はあるか。

→検討しているものがある。

・企業連携は継続的に実施することで効果が現れ、価値があるのでぜひ実施してほしい。

→動物園アプリを継続し活用している。新しいコンテンツの提供も検討している。

・人材育成に関して、以前獣医を1か所に集めるという説明があったが連携のメリットとデメリットを知りたい。

→1か所に獣医を集めるというのは、ミーティングや手術を一緒に実施し技術共有を行っ

ているもので1園にまとめているということではない。

・各園それぞれに獣医がいて、定期的に情報共有を行っているということか。

→はい。大きな動物の対応や手術などに関して協力して実施している。獣医は各園の動物を朝からきちんと見るのが大事ということを認識している。

・オランウータン舎の改修には遺贈寄附が含まれているとのことであるが、企業連携とは違う個人からの寄附やアニマルペアレントについて、どのように評価し強化していくかというビジョンについて説明がなかったと感じた。遺贈寄附については、どのような経緯だったのか、今後増やしていけるものかまたその取組や戦略について考えを伺いたい。

→寄附金については先方からの申出があり受納した。動物園の財政事情を考えるとアニマルペアレントも強化していきたいが、実際は友の会やアニマルペアレント、動物園基金など複数の寄附手段があるため、お客様にどの方法がよいかを選んでいただける状態を継続しつつ、広げていきたいと考えている。

・ズーラシアは開園 20 周年で、すでに思い出の場所になっていることを感じた。動物園は思い入れがある場所だからこそ、遺贈寄附があったのだと思う。このような気持ちは、実際には水面下にあり、私たちに見えていないところに存在している。そのような方々と、地下水脈ではなく顔が見える関係を築き、ドナーピラミッド*を構築していく努力や仕掛けを意識的に実施することが必要である。

*ドナーピラミッド・・・寄附者や潜在的な寄附者の獲得過程をピラミッド型に描き、分析するもの

(ヒアリング終了 指定管理者退席)

(委員意見交換)

・人材育成について質問した主旨は、育てる対象がどれ位いるかという点であり、それに対する答えとしては若干心もとない回答ではあったが、例えば園長が職員に行った講義は固有職員だけでなく、将来他園に採用されるかもしれない嘱託職員にも広まることで、広い意味では日本全国の人材育成に関わっているのだという前向きな捉え方もできるのではないか。

・十数人の嘱託職員を育てているが、自園で正規採用できないため他園に勤務するという状況になっているのか。

→市の動物園で力を発揮して欲しい気持ちであるが、動物園は全国的に常時採用があるわけではなく臨時職員が多い状況である。そのため正式な採用が決まれば他園で働くということがある。

・動物に関することでは、野毛山動物園にいるライオンの老齢個体などを見て良い傾向だと感じた。繁殖が成功し動物が増えることは良いが、一方で飼育場所がなくなり繁殖制限

を行う事にもつながる。そしてさらに他園に移動できない動物が出てくることになる。その時、野毛山動物園で受け入れることにより、生じたスペースを利用して繁殖を行うことができる。金沢動物園もその役割を担うかもしれないが、このようなことは動物の飼育・繁殖の取組で3園が連携し役割分担が機能しているといえると思う。

・野毛山動物園は繁殖しない老齢個体についてもしっかり飼育しているということも含めて、トータルでとても意味があると思う。これからは福祉の観点も重要になるため、野毛山動物園の取組は大切である。

・金沢動物園のオカピの件も含めて「飼育・繁殖」の「積極的な取組」と捉える。

・飼育員は当たり前のことで気づいていないかもしれないが、国際的取組同様に、またはそれ以上に野毛山動物園のこのような役割はとても大切である。

・事業効果に関して、アンケートの満足度から概ね「満足している」という結果報告であるが、リピーターになっているか、リピーターを増やすために何か実施しているかが大切である。

・アンケート結果を活用する場合、「もう来たくない」という回答の理由を探ることが必要である。

・金沢動物園のトイレの洋式化について、アンケートを聞いてから動くのでは遅い。順次改築しているということであるが、屋外施設という弱みがあるにしても公共施設全般的に甘いと感じる。

・SNS以外で、来園者はどのように動物園の情報を得ているのか疑問に感じている。広告を打っているということだが、市外になると県内でもあまり目にしない。

・横浜市内では、長期休み前にチラシが配られるなど学齢層へ働きかけがあるが、年齢層が高くなると定期的に入ってくる市報や県のたよりなどが情報収集手段になる。どの世代に働きかけるかを分析することが必要になってくる。

・狙った層に見合ったイベントを実施しているかが重要である。

・先日、北関東のある動物園がマヌルネコの赤ちゃんを公開したところ、多くの来園者があり関西方面からも来園があったと聞いたが、マスコミには積極的に働きかけているのか。

→平成30年度は74件の記者発表を行った。

・入園者数について、減っているという結果が出ているが、それについてはどうか。

	<p>→入園料収入の観点だけではなく、動物園の役割をしっかりと果たすという意味でも入園者数の確保は必要だと考えている。平成 30 年度は天候にかなり引きずられたという印象で、近隣の園と比べても入園者数の増減にほぼ同じような連動が見られている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野毛山動物園ではふれあいコーナーがあるが、野毛山動物園とズーラシアではどちらの遠足件数が多いかなど傾向を掴んでおくとい。近隣に動物園ができた時、自園の遠足件数が一気に減ってしまったという事例が過去にあった。 <p>(採点結果の説明) (全体総括)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来園者は減っているが、努力は見受けられ頑張っている印象である。 ・動物園が人の心を掴みリピーターを確保し、寄附者へとつなげるドナーピラミッドを作るためにも、どのように人の心を掴んでいくかという戦略を見せてほしいと思う。 ・珍しい動物や希少種を増やすことに特に注目されてしまいがちだが、3園や他園とも協力して動物を大事にしてほしいと思う。 ・国際的な取組の視点では、今回は残念ながら導入できなかったオカピの件についても、それを実現する力を持っているので成果が表れることを期待したい。またウガンダ事業や件数が伸びた調査研究についても、継続してほしい。 <p>2 令和元年第 1 回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録の確認</p> <p>(事務局より説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・了承した。
配布資料	<p>資料 1 指定管理者事業評価依頼書</p> <p>資料 2 平成 30 年度指定管理者事業評価採点報告書</p> <p>資料 3 平成 30 年度調査員・評定員所見シート</p> <p>資料 4 指定管理者出席者名簿</p> <p>資料 5 令和元年度第 1 回横浜市動物園等指定管理者選定評価委員会会議録</p> <p>参考 1 横浜市動物園等の事業評価について</p> <p>参考 2 平成 29 年度指定管理者事業評価採点報告書</p> <p>参考 3 平成 30 年度事業報告書</p> <p>採点シート 事業評価シート (3 指定管理者の取組姿勢)</p>